

2015年12月  
No.15-173a(全)※1

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■検査要項

項目コード	一
検査項目名	抗MDA5抗体
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵
検査方法	EIA
基準値	陰性(ー) インデックス値 32未満
所要日数	4~11日
実施料	未収載
検査場所	LSIメディエンス (→1)

#### ■受託開始日

●2015年12月24日(木)

以上

## 抗MDA5抗体

皮膚筋炎(dermatomyositis; DM)は自己免疫による代表的な炎症性皮膚疾患であり、ヘルオトロープ疹やゴットロン徵候を始めとした多彩な臨床症状を示すことで知られています。多発性筋炎/皮膚筋炎(PM/DM)としての患者数は国内に約2万人、男女比はおよそ1:3、中年以降での発症が多いとされています。

皮膚症状のみで臨床的に6ヵ月以上筋症状が認められない皮膚筋炎患者を無筋症性DM(clinically amyopathic dermatomyositis; CADM)と呼び、DMに特徴的な皮疹を有していますが、筋力低下などの症状に乏しく、CKや筋電図等の検査所見にも異常を認めることが少ないとされています。近年、免疫沈降法によりCADM患者の血清中に分子量140kDaのバンドが認められたことから、この自己抗体は抗CADM-140抗体と呼称されました。その後、この抗体の対応抗原がmelanoma differentiation-associated gene 5(MDA5)であることが判明し、抗MDA5抗体と命名されたため、抗CADM-140／MDA5抗体と呼ばれることがあります。

DM患者と比較し、抗MDA5抗体陽性(CADM)患者は高率に急性間質性肺炎(AIP)を併発し、その中の多くは急速に呼吸困難が進行する急速進行性間質性肺炎(rapidly progressive ILD: RP-ILD)とされています。RP-ILDは数日から数週間で急速に呼吸不全が進行し、強力なステロイド剤や免疫抑制剤投与などに対しても治療抵抗性で予後不良とされています。

RP-ILD合併CADMの報告例は日本を含む東アジア地域に多く、欧米諸国においても近年同様の報告が認められています。

抗MDA5抗体はCADMに特異的に認められる自己抗体で、他の自己免疫疾患ではほとんど検出されず、成人DMにおける出現頻度は10～25%とされています。

また、抗MDA5抗体陽性の患者におけるRP-ILDの合併頻度は50～70%であり、治療前の抗体価が予後に関連があることを示唆する発表や、抗体価の推移が経過観察に有用との報告もあり、今後の研究が待たれます。

### ■参考文献

佐藤慎二:炎症と免疫 22:443-447, 2014.